



奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kizuna

No. 170

2012 Jul **7**

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発行人：
関西障害者定期刊行物協会
編集人：奈良県自閉症協会
支部長&事務局：河村舟二
〒639-1005
大和郡山市矢田山町84-10
購読料1部 100円
会員は会費に含まれています。

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)日発行

社団法人日本自閉症協会第22回全国大会 in ほっかいどうが平成24年7月14日(土)・15日(日)に札幌市内の「かでる2.7」を会場に行われ、河村も奈良から参加してきました。一日目に行われた日本理化学工業株式会社会長 大山泰弘氏の講演「みんなが働ける共生社会の提言」～重度知的障害者に導かれた企業経営から～はとても感動的な内容でした。少し概要を披露したいと思います。大山会長は1932年東京生まれ。元来、障害者福祉とは関係はなく中央大学法学部卒業後、病身のお父さんの設立されたチョーク製造会社「日本理化学工業」に入社され、1974年社長に就任2008年から会長職をされています。この間、1960年、はじめて知的障害者を雇用して以来、一貫して障害者雇用を推し進めてこられ、1975年には、川崎市に日本初のモデル工場を建設。現在、74人の社員のうち53人が知的障害者(障害者雇用率約7割)。製造ラインをほぼ100%知的障害者のみで稼働できるよう、工程にさまざまな工夫を凝らしておられます。こうした経営が評価され2009年、渋沢栄一賞を受賞されました。日本理化学工業は、チョークを作る会社としては歴史が浅く昭和12年からだそうです。最初学校などからアメリカのチョークを輸入して欲しいと頼まれたことか

ら、原料が炭酸カルシュームで出来ているので我が国でも原材料はいっぱいあり、自分たちで作れるということから始まったようです。今では日本理化学工業のチョークは国内では北海道から沖縄まで全国32パーセントのシェアを持っておられます。驚くことにこの会社では、7割の働く知的障害者が、まさに企業の戦力になって生き生きと働いておられるということです。特に感動的だったのは大山会長がなぜ知的障害者の雇用を決意するに至ったかといういきさつの話でした。大山さんに

全国大会を終えて

よれば、自分は大学は出た。大学で学んだことより知的障害者の無言の説法で導かれ、人の幸せとは何か、生きる意味を気づかされ、知的障害者からさらに多くの無言の説法を受けた。それはまさに仏典にある十六羅漢の一人、周利槃特(シュリハンドク)の逸話そのものだったということです。(※後述)1960年(昭和34)の秋、世田谷の青鳥養護学校の先生が卒業生の就職先を求めて会社に来られることから始まります。当時精神薄弱児と聞いていた。当時大山さんはこのような人の就職なんてとんでもないと思っていた。しかしその先生は2度3度と会

社に訪れた。最後は就職のお願いではなく、一回でいいから働く経験を生徒にさせて欲しいというお願いでした。当時は高等部のない頃で、中学卒業後は知的障害者は施設に入って一生を送るのがいいという考えでした。この先生は、「働くということを知らずに施設に送るのは口惜しい、何とか社会で働く経験させて欲しい」と頼まれたのです。大山さんはこの先生の言葉に痛く感動され、従業員に相談され、ちょっとだけ面倒見てやって欲しいということで二週間の実習を引き受けられたのです。すると実習最後の日に従業員が大山さんの所にやってきて「専務さん一生懸命頑張っていたこの女の子たちを何とか雇ってもらえないだろうか」と訴えたのです。従業員のおばさんたちが言うのには、弁当の時間を教えていないからベルが鳴っても働いていた。しかも休憩の声をかけるまで毎日仕事を止めない。「こんなに一生懸命楽しそうに働くのに施設にやるのはかわいそうだ。たった二人のことだから何とかならぬか頼みにきた」というのです。そこでS35年就職させることになりました。そして現在74人中54人の知的障害者を雇うことになるのです。もう一つ大山さんが障害者の多数雇用を決意する出来事がありました。それは、たまたま業界の法事がり、大山さんが遅刻をしたため、座る場所

が無く、禪寺の和尚さんの隣になってしまい、和尚さんと会話することに始まります。大山さんは和尚に「うちの会社には字も書けない。数も数えられない障害者が働いている。施設に入れた方が楽だと思うが、彼らは毎日休まず、遅刻もせずに来る。施設に行ったほうがずーっと楽なのに」と話すと、この禪のお坊さんは厳しい顔をされ、こうおっしゃったようです。「大山さん。人間は大事に面倒を見られることが幸せなのか？とんでもない。人の究極の幸せは、一、愛されること。二、ほめられること。三、人の役にたつこと。四、人に必要とされること。」と諭されたようです。なるほど、施設では「君がいないと困る」「こんな大雨のなか来てくれて助かっちゃうよ」「ご苦労様」などの言葉がけがなされるのだろうか。これらは会社でこそ成り立つ会話なのです。そして、「福

祉施設が人間を幸せにするのではなくて、人間を幸せにしてくれるのは企業なんですよ」とこのご住職が言われたことが大山さんが知的障害者多数雇用の企業を決意された理由でした。大山会長の話はまだまだ続き、字が読めない計算の出来ない人が正確な仕事をするための作業工程の工夫など、興味が尽きない90分を越える内容でした。以下レジメの項目を掲載しておきます。

一、日本理化学工業(株)とは

国内シェア30%を持つダストレスチョークメーカーで、従業員74人中55人の知的障害者を雇用している

二、何故知的障害者多数雇用モデル工場をつくったのか

1. 青鳥養護学校の先生の3回の訪問で
2. 禪のお坊さんの言葉から障害者の多数雇用を決意

3. 従業員の50%以上を条件とする、国の心身障害者多数雇用モデル工場

融資制度を活用してスタート(1975年)

三、知的障害者の雇用割合7割を越す企業経営の進め方

1. 知的障害者の理解力に合わせた工程の工夫
2. 彼らの親切さを活用しての班長制度を設けた

四、モデル工場経営は一石三鳥の社会的貢献、そして渋沢栄一賞受賞で知る日本の中小企業のもう一つの活路

五、真の福祉に立つ日本国憲法からすべての国民が役に立って働ける共生社会の実現へ

六、商売繁盛のえびす様が、障害者雇用の日本理化学に子育て文化に貢献するキットパスを用意して下さった 以上

※講演に引用された仏典にある周利槃特の逸話の概要。

お釈迦様の弟子のひとりに、周利槃特(シュリハンドク)という人がいました。(サンスクリット語でチューダパンタカ、パーリ語でチュッラパンタカ)周利槃特はお釈迦様の教えに魅了され、兄である摩訶槃特(マカハンドク・マハーパンタカ)とともに出家をしてお釈迦様の弟子になりました。兄の摩訶槃特は秀才の誉れ高い人物でしたが、弟である周利槃特はものを覚えるのが苦手で、お釈迦様の教えを覚えるどころか、自分の名前すらも忘れてしまうくらいで、「健忘第一」とあだ名されるようにさえなりました。出家して4カ月もたつのに、お釈迦様の教えのほんの短い一文すら覚えられず、まわりの兄弟子たちからは嘲笑され、実の兄である摩訶槃特からも、「お前のようなバカがいると、

世尊の顔に泥を塗る。お前は釈迦教団の足手まといだ。荷物をまとめてさっさと精舎から出ていけ!」とつめよられました。たよりにしていたたった一人の実の兄にまでこんなふうに言われてしまった周利槃特は、悲しくて悲しくて、精舎のすみの池のほとりでポロポロポロ涙を流して泣いていました。荷物をまとめて精舎を去ろうとしていた周利槃特を、お釈迦様が呼びとめます。そして、一本の箒を手渡してこのようにおっしゃったのです。「周利槃特よ、八万四千とも言われる、わたしの教えをすべて覚える必要はない。きょうからおまえにひとつだけ課題を与えよう。そのひとつのことをやりとげなさい。」そのたったひとつの課題とは、照る日も曇る日も、毎日毎日精舎の中を箒で掃き清めることでした。そして、掃き清めながら、「塵を払わん、垢をのぞかん。」という

言葉を、呪文のように繰り返し繰り返し唱えつづけること。たったこれだけのことでした。「世尊よ、これならば愚かで物忘れのひどいわたしにもできます。ありがとうございます。」周利槃特は嬉々としてその課題に取り組みました。まわりの兄弟子たちはいぶかりました。周利槃特よりも後から入門してきた年下の弟子たちさえも彼をからかいました。「コイツ、何をブツブツ言ってるんだ?」「ん?塵を払わん、垢をのぞかんだってさ。」「なんだそれ?経文でも覚えたと思ったら。やっぱコイツ、正真正銘のバカだわ。」周囲のそしりには目もくれずに、周利槃特は釈迦さまからの言いつけを守って、ひたすら掃除を続けました。「塵を払わん、垢をのぞかん。塵を払わん、垢をのぞかん...」お釈迦様は何もおっしゃらずに、じっとその様子を

見守っておいででした。ある日、いつものように箒を手にして精舎の庭を掃き清めている最中、周利槃特はハッと悟りました。「塵を払い垢をのぞくとは、己の心を清めること。人として生きている間、煩惱は雑草のようにここに生じ続ける。怠りなく自分の心を清め続けることが悟りへの道なのだ。」「健忘第一」とあだ名された周利槃特。彼は人から教えられたことは何ひとつ覚えることはできませんでしたが、お釈迦様から教えられたたったひとつのことをひたむき実践し続ける中でみずからつかみとった気付きだけは、彼のところから失われることはありませんでした。周利槃特は、ついに光明(さとり)を得たのです。彼の寺を箒で清める一生懸命の姿には誰でも手を合わせたくなるのです。すなわち無言の説法が出来たのです
(河村)

平成24年6月27日に 障害者総合支援法が公布されました。地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律について標記法律については、平成24年3月に閣法として閣議決定され、同年4月に衆議院にて修正・可決、同年6月に参議院にて可決・成立、同月27日に公布されました。

本法律では、平成25年4月1日から、「障害者自立支援法」を「障害者総合支援法」とするとともに、障害者の定義に難病等を追加し、平成26年4月1日から、重度訪問介護の対象者の拡大、ケアホームのグループホームへの一元化などが実施されます。

厚生労働省のホームページでは、本法律の概要や関係情報が紹介されています。

「発達障害、子育てで防げる」議員勉強会に抗議・批判

超党派の国会議員66人でつくる「親学推進議員連盟」が、「伝統的な子育てで発達障害を予防できる」という趣旨の勉強会を開いたとして、

発達障害者の支援団体が28日、議連会長の安倍晋三元首相あてに、勉強会で使われた資料の破棄などを求める要望書を送った。資料には、脳の先天的機能障害である発達障害について「予防は簡単、治療は大変」などと記されているといい、「科学的根拠を欠く」と抗議している。

要望書を送ったのは、発達障害の当事者や研究者らでつくる日本発達障害ネットワークと、NPO法人アスペ・エルデの会。勉強会は5月下旬にあり、民間教育団体の所長と、大学教授が「発達障害を予防する伝統的子育て」をテーマに話した。配られた資料には、伝統的子育ての方法として「言葉かけが多い」「あやす」などの記載があったという。

同ネット理事長の市川宏伸・東京都立小児総合医療センター顧問は「育て方で後天的に生じる発達障害はない。こうした考え方は、親への偏見を助長する」と批判する。

議連は今春、親への適切な育児情報を提供する「家庭教育支援法」の制定を目指し発足。事務局長の下村博文衆院議員が、勉強会の内容をブログで紹介すると抗議が相次いだ。議員は今月2日、ブログ上で「誤ったメッセージになった。深くおわび

する」と謝罪したが、要望書については「講演内容への要望なので、講演者が対応すべきだ」と話した。(帯金真弓、田中陽子) (2012年6月29日朝日新聞デジタルニュース)



平成24年7月 日

大阪維新の会大阪市会議団

幹事長 大内 啓治 様

公明党大阪市会議団

幹事長 高山 仁 様

大阪自閉症協会

会長 山本 忠

大阪LD親の会おたふく会

代表 山根 智恵美

要望書

日頃は、発達障害のある人やその家族に対するご理解とご支援をいただき、感謝申し上げます。

今、障害者施策は、障害観のパラダイムチェンジを伴う歴史的な転換期を迎えています。発達障害のある人をふくめ、障害のある人たちが、ノーマライゼーションの理念のもとに、地域の中で幸福な生活を送っていくための制度設計が必要です。

貴議員団が連盟で橋下大阪市長に平成24年6月19日付で提出された福祉施策に関して申入れの中で、「発達障害者支援体制の構築—早期発見から発達支援、自立支援へ」を挙げ、（仮称）「発達障害者支援室」の設置を提案されたこと、多いに賛同するものです。

つきましては、発達障害者やその家族のニーズに応じた支援が、一日も早く充実するよう、下記を要望します。

【要望事項】

発達障害者支援については、発達障害者やその家族からの声も聞き、ニーズに応じた支援体制を構築することが必要です。

- ① （仮称）「発達障害者支援室」の設置を要望します
- ② （仮称）「発達障害支援室」の検討会の構成員として、親の会等の当事者団体も、設置準備段階から参加させていただくことを要望します。

平成24年7月 日

大阪市長 橋下 徹 様

大阪自閉症協会
会長 山本 忠
大阪LD親の会おたふく会
代表 山根 智恵美

要望書

日頃は、発達障害のある人やその家族に対するご理解とご支援をいただき、感謝申し上げます。

今、障害者施策は、障害観のパラダイムチェンジを伴う歴史的な転換期を迎えています。発達障害のある人をふくめ、障害のある人たちが、ノーマライゼーションの理念のもとに、地域の中で幸福な生活を送っていくための制度設計が必要です。

大阪維新の会大阪市会議団、公明党大阪市会議団が、平成24年6月19日付で提出された福祉施策に関して申入れの中で、「発達障害者支援体制の構築—早期発見から発達支援、自立支援へ」を掲げられ、その方策として（仮称）「発達障害者支援室」の設置を提案されたこと、多いに賛同するものです。

つきましては、発達障害者やその家族のニーズに応じた支援が、一日も早く充実するよう、下記を要望します。

【要望事項】

発達障害者支援については、発達障害者やその家族からの声も聞き、ニーズに応じた支援体制を構築することが必要です。

- ① 「発達障害者支援室」の設置を要望します。
- ② 「発達障害支援室」の検討会の構成員として、親の会等の当事者団体も、設置準備段階から参加させていただくことを要望します。

障福第247号
平成24年7月11日

NPO 法人奈良県自閉症協会
理事長 河村 舟二 様

奈良県障害者アート創出事業
実行委員会委員長
(奈良県健康福祉部長)

平成24年度奈良県障害者アート創出事業
「アートリンクプロジェクト」参加者募集について

本県では、昨年度より、「障害のある人と障害のない人のつながり」をテーマに「障害者スポーツ・アート創出事業」を実施しております。

その中で、障害者アートにつきましては、県と事業委託先である財団法人たんぽぽの家が中心となり、県内の障害福祉関係者や文化・芸術関係者等を構成員とする「奈良県障害者アート創出事業実行委員会」（事務局：県障害福祉課）を設置し、様々な事業の企画・運営を行うこととしております。

その取り組みの一環として、今年度も「アートリンクプロジェクト」を実施することとし、別添「参加者募集」により、参加者を募集いたします。

貴団体等におかれましても、会員の方々等への周知を図っていただきますようお願い申し上げます。

事業進行の都合上、募集〆切までの期間が下記のとおり短期間となり、ご迷惑をおかけしますが、ご協力いただきますようお願いいたします。

記

■アートリンクプロジェクト

内 容：障害のある人とアーティストがペアとなり、お互いの感性や創造性を大切にしながら共同で作品を制作し、発表する。

期 間：平成24年8月中旬～平成25年1月中旬

募集人数：障害のある人10～15人

募集〆切：平成24年8月7日（火）

<実行委員会事務局>

〒630-8501 奈良市登大路町30番地

奈良県健康福祉部 障害福祉課

担当：三好

TEL 0742-27-8517

FAX 0742-22-1814

e-mail syogai@office.pref.nara.lg.jp

奈良県障害者芸術祭 HAPPY SPOT NARA2012-2013

アートリンクプロジェクト 参加者募集

■「奈良県障害者芸術祭」HAPPY SPOT NARA

奈良県では2011年度より、障害のある人とない人の交流の場の創出や障害のある人への理解を深めることを目的として新たな取り組みを実施しています。アートを媒介に、障害のある人、福祉施設、アーティスト、地域の人など、ゆるやかなネットワークがうまれつつあります。本年は、「つながりを広げる」をテーマに、障害のある人が様々な人たちと出会い、自らの表現力を高め、広く理解してもらうことを目指し、2013年2月に開催するフェスティバルを中心に、さまざまな企画を予定しています。

そのイベントとして「アートリンク・プロジェクト」を開催するにあたり、参加者を募集します。みなさまのご参加をお待ちしております。

■アートリンクプロジェクト

[内容] 障害のある人とアーティストがペアとなり、お互いの感性や創造性を大切にしながら共同で作品を制作し、フェスティバルで発表します。

[募集人数] 奈良県内の障害のある人10人

[募集〆切] 2012年8月7日(火)

[参加の可否連絡について] 応募いただいた後、何人かのアーティストと顔合わせをし、マッチングができた人がプロジェクトにご参加いただくこととなります。ご希望に添えず、マッチングができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

[対象者]

・ 奈良県内に在住の障害のある人で、2013年2月まで継続してプロジェクトへの参加が可能な方。

例えばこんな人・・・

- ・ 他人と一緒にものをつくるのが好きな人
- ・ 生活のなかで不思議な行動をする人
- ・ だれかとコミュニケーションするのが好きな人
- ・ 誰かの注目をあびたい人 etc...

[活動の流れ]

2012年7～8月：パートナーの決定。アーティストのプロフィールを障害のある人や団体に紹介し、関係者と協議の上でマッチングします。

8月～2013年1月：約半年にわたっての共同制作。何をつくるか、どんな頻度で会い、どこで作るかは、パートナーやコーディネーターと相談し決めます。

2013年2月7日～2月17日：

奈良県文化会館での作品およびプロセスを展示します。

※期間中の諸経費（制作にかかる費用など）は主催者が用意します。また些少ですが制作の謝金をお支払いします。

主催：奈良県

実行運営：奈良県障害者アート創出事業実行委員会

本件に関するお問い合わせ・申し込み先

奈良県障害者アート創出事業実行委員会事務局（担当：岡部・阿部）

〒630-8044 奈良市六条西3-25-4 財団法人たんぼぼの家内

Tel.0742-47-5395 Fax.0742-49-5501

E-mail happyspot@popo.or.jp

奈良県障害者芸術祭 HAPPY SPOT NARA 2012-2013 アートリンク・プロジェクト

エントリーシート

必要事項をご記入の上、事務局まで TEL、FAX、E-mailにてお申し込みください。

申し込みを受け次第、折り返し事務局より連絡をさせていただきます。

◆障害のあるアーティストに関する情報

名 前	ふりがな	性別	男・女	年齢	歳
所 属 (なければ記入不要)					
連絡先住所	(どちらかに○) 個人 ・ 所属団体 〒 (-)				
	Tel.				
	Fax.				
支援者・保護者名	E-mail				
	※本人が応募する場合は記入不要				
どのような障害が ありますか？	応募者との関係 ()				
日頃の活動	●これまで何らかの創作活動の経験があればご記入ください。				
	●創作活動以外で日頃の活動されていることがあればご記入ください。				
アートリンクプロ ジェクトについて	●活動できる日程、時間帯、時期について現在わかる範囲で結構ですので自由にご記入ください。(例) 毎週日曜日の午後であれば可				
	●アートリンクの活動場所について、以下よりお選びください。				
	1. 相手に合わせる(奈良県内) 2. 自分の制作するスペースに来てほしい 3. その他				
メッセージ	リンクを探すうえで、アーティストへのメッセージがありましたら自由にご記入ください。				

Fax: 0742-49-5501

揺さぶり症候群が発達障害に関係しているとの報道

7月18日夕方、フジテレビのスーパーニュースで揺さぶり症候群が発達障害の原因とされる以下のような報道がありました。… 神奈川・横浜市で、生後5カ月の長女への暴行容疑で逮捕された32歳の父親が、17日に送検されました。今回の事件は、父親の逮捕まで1年と4カ月かかりました。揺さぶったことをどのように判断したのか、父親逮捕のポイントについて、担当の滝澤教子記者の解説です。今回のような頭の揺さぶりによる虐待は、体にあざなどが残らないため、虐待とは扱われず、立件が見送られるケースもあるとされています。今回、病院から通報を受けた神奈川県警は、西川 祥容疑者(32)の長女・楓莉(かいり)

ちゃんの症状と虐待を結びつけるため、脳神経外科や小児科医、虐待に詳しい医師ら、多方面の専門家の意見を参考にした結果、視覚障害や発達障害など、重度の障害が残る可能性が高いとして、揺さぶり、つまり虐待による結果として逮捕に至りました。また犯行時は、父親と娘の2人きりで、現場は密室。さらに、楓莉ちゃんは、言葉を話すことができない赤ちゃんという状況も、立件へのハードルとなりましたが、西川容疑者以外の第3者による犯行はあり得ないという、状況証拠を積み重ねて、逮捕にこぎつけたといえます。(07/17 18:51)…ここで使われている「発達障害」の言葉は「発育に悪影響」と表現すべきもので、言葉の誤用であると思われるため、フジテレビに対し「発達障害は先天的な脳の機能障害である」ので、このような使い方を放置しておけないので使

用に気をつけて欲しい旨を奈良県自閉症協会として河村から伝えました。その後2012年7月20日16:00頃、フジテレビ報道局のサカモト様から電話があり、今回の報道の件は警察からの情報を鵜呑みにしてして誤解を招く発達障害という言葉を使ってしまったが軽率で申し訳なかった。現在ではwebのFNNの記事では発達障害という言葉は消えています。今後は正しい報道につとめますとのことでした。一応、日本自閉症協会にも、この件伝えるようお願いしました。以下は現在のフジニュースネットワークの記事です(河村)
○横浜市5カ月長女「揺さぶり」事件 逮捕の32歳父親を送検
神奈川・横浜市で、生後5カ月の長女への暴行容疑で逮捕された32歳の父親が、17日に送検された。日ごろ、子煩悩だったという父親。母親が取材に応じた。

「(夫は)無罪で冤罪(えんざい)で。本当に何もしていないので、(夫は)すぐ帰ってくると思っているので」と語るのは、17日に送検された西川 祥容疑者(32)の妻。

子煩悩な父親だったという西川容疑者の逮捕容疑は、長女への暴行。

西川容疑者は、横浜市の自宅で、当時5カ月だった長女の頭を激しく揺さぶるなどの暴行を加えた疑いが持たれている。

1年4カ月後の父親の逮捕。

警察によると、2011年3月、西川容疑者は、長女・楓莉(かいり)ちゃんと自宅に2人でいたが、夕方に帰宅した家族が、楓莉ちゃんが泣きやまないなど異変に気づき、病院に連れて行ったという。

楓莉ちゃんは、急性硬膜下血腫、急性脳浮腫などを起こしていたため、医師が虐待の可能性があると、警察に通報していた。

近所の人「(家に)警察が何回か来たりしたのは、『どうしたのかな?』と思った。警察の人から『今、捜査中だから、黙っててください』と言われた」と話した。

西川容疑者の妻は「(夫は)とても子煩悩な人なので、妊娠がわかった時も喜んでいたし、(娘が)生まれた時も喜んでいた。日ごろ、娘に対して何かしていたというのは全くないです。逆に溺愛している感じで、写真もいっぱい撮っていました。(夫が)逮捕されるのは、納得いかない」と話した。

楓莉ちゃんの身に起きたとみられているのが、頭を激しく揺らされることで、脳に損傷が起きる「揺さぶられ症候群」。

この揺さぶられ症候群について、みやのこどもクリニックの宮野孝一院長は「(揺さぶられ症候群とは?)前後に揺さぶることによって、頭の

中で出血を起こしたり、目の出血、そういうのを起こす。最悪、死に至る病気と言われている」と話した。東京工業大学が、乳児の人形を使って行った、揺さぶられ症候群の実験の映像では、首の据わっていない乳児の頭は、激しく揺れていた。

実験の結果、1秒間に3~4回のスピードで揺らすと、脳に損傷が起きることがわかったという。

楓莉ちゃんは、現在1歳9カ月。言葉も話せないため、くわしい症状はわからないが、視覚障害など、重度の障害が残る可能性が高いという。

一方、西川容疑者の妻は「(子どもを)本当に抱くのが丁寧な主人なので、ちょっとでも危ない抱き方とかはしない人なんです。揺さぶるとか、考えられないですね」と話した。揺さぶられ症候群をめぐっては、2012年3月にも、東京・八王子で、

生後2カ月の次女に大けがをさせた父親が、執行猶予付きの有罪判決を受けている。

若狭 勝弁護士は「直接証拠としては、目撃者がいるわけではないので、(西川容疑者)本人から、逮捕後、きちんと言い分を聞くなどして、慎重に判断をする必要はあると思います」と話した。

調べに対し、西川容疑者は「何もやっていない」と、容疑を否認している。

(07/17 18:46)

脳 磁図計を使って短期間に自閉症かどうか診断できる可能性があるというような情報がマスコミにでていますが、これはまだ仮説の研究段階のようです。医学の世界では、仮説を立てて多くの研究が行われています。成果についてはもう少し見守る必要があると思われます。(河村)

○発達障害、脳の活動場所に違い
三邊金大教授ら確認

発達障害の子どもと発達障害ではない子どもの脳を比較すると、神経細胞の活動場所に違いがあることを、金大医薬保健研究域医学系の三邊義雄教授らの研究グループが15日までに、世界で初めて突き止めた。同グループなどが開発した脳の磁場を測定する幼児用の「脳磁計」で調べた。発達障害は現在、問診で診断されており、機器を使った客観的な診断方法が確立すれば、早期

発見につながる。

三邊教授と「子どものこころの発達研究センター」の菊知充特任准教授らのグループは 横河電機(東京)、金沢工大、島津製作所(京都)と共同研究で「脳磁計」を幼児用に関 発。3~7歳の発達障害の35人と発達障害ではない35人で、脳の神経細胞の活動を調べた。

その結果、発達障害の子どもでは、30人(85・7%)は、神経細胞の活動が空間を 認知する能力をつかさどる右脳を中心に行われていた。一方、発達障害ではない子どもでは、32人(91・4%)が言葉やコミュニケーションをつかさどる左脳を中心に神経細胞の活動が行われていた。

三邊教授によると、成人の脳で神経細胞の活動の違いを示した研究結果はあったが、幼児に適した計測装置がなく、子どもの脳に関する

データはなかった。

三邊教授は「発達障害が早期に見つかれば、その子どもに合わせた対応ができるようになる」と話した。

研究成果は16~18日に金沢市で開かれる「第2回金大子どものこころサミット」で発表される。(北国新聞)石川のニュース

【3月16日02時41分更新】

○自閉症に優しい街へ 金沢で市民熟議 市へ提言準備 支援態勢や早期診断議論

自閉症に優しい街づくりを目指す金沢市内の市民団体「自閉症の未来協議会」は十五日、同市広坂二のしいのき迎賓館で政策提言のための「市民熟議2012金沢」を開いた。早期診断の是非が話し合われ、支援態勢の充実を求める声が相次いだ。二十九日に総括の議論をし、市への提言を取りまとめる予定。(大森雅弥)

金沢大の研究チームと共催。冒頭、協議会の足立章江会長が「いろいろな意見を持つ市民が立場を超えてじっくり話し合い、必要なら社会や行政に働き掛けたい」とあいさつした。

続いて、脳磁図計を使った早期診断の新技术の開発に取り組む菊知充金沢大特任准教授が、短時間で自閉症かどうか診断できる可能性があることや、大規模な活用については倫理的問題があることなどを説明。これを受けて、協議会のメンバー、自閉症の当事者やその親、医療関係者、関心のある市民など三十人が五つのグループに分かれて議論した。

新技术による早期診断に関しては、研究の進展には肯定的な意見が多かった。しかし、実用には「親がショックを受ける」「レッテルが貼られ、差別につながりかねない」と不安視する声が目立った。早期診断とセットで自閉症の人や親への支援

態勢を整備する必要性が指摘されたほか、啓発を通じて多様性を認め合う社会に変えていくべきだとの声も出た。(中日新聞2012年7月16日)



7月19日の朝日新聞掲載記事について総合福祉部会長であった佐藤久夫さんが、趣旨が異なっているととして下記の内容のメールがありました。(河村) 皆様

今日、7月19日の朝日新聞朝刊30面の「障害者福祉 前進わずか」という記事を読んだ人も多いかと思います。全体的には、障害者総合支援法は骨格提言のほとんどを先送りしたもので課題が大きい、との論調で納得できる内容と私は思います。その記事の一番最後に、次の一文があります。

「・・・佐藤久夫・日本社会事業大学教授は『最大の壁は財政問題。障害者が住みやすい社会にするためには国民の後押しが必要だ。社会が障害者のためにさらに負担する覚悟があるのか、この3年間に議論を深

める必要がある』と話す。」
 これでは、「この財政難の時代、障害者福祉の予算を増やすことへの国民の合意が得られない。骨格提言の実現は困難だ。」という厚労省とほとんど同じになってしまいます。

私が今後の課題についての意見を聞かれて、朝日新聞にメールで送ったメモでは次のような部分がありました(7月12日)。

「全体として、国会審議でも財政問題が骨格提言実現の最大の壁であるとされた。佐藤もお金がなければ実行できないし、お金を確保するには国民の後押しが絶対に必要と思う。

そこで、まず調査したらよい。いくらいるのか、いくら足りないのか。

大都市、地方都市、農村部などの障害者2000人でも、3000人でも、全国推計がほぼできる程度のサンプル数の障害者を対象に、安

心して暮らすためのサービスはどのような種類と量なのか、今のサービスと比べてどれだけプラスの必要があるのか、を。

全国推計に換算して国と地方は後いくら増やせばこのニーズを満たせるのか。

そのデータを公開し、国民は、国会はそれを払う用意があるのかないのか、を議論すべきであろう。その際、現状では障害のない市民との生活の格差がどうなっており、その支援が増えればその格差がどれだけ縮まるのか、その推計もあわせて提供する。

要するに、日本社会は障害者をどう見ているのか、の議論をベースに政策を作るということである。」

趣旨が違ったことについて、朝日新聞には苦情を呈す予定です。

いずれにせよ、小宮山大臣も何度も「骨格提言は段階的・計画的に実

現してゆきます」と約束しています。ならば、実現するための具体的な手順を示してもらわねばなりません。「財政難」は確かにあり、大きな壁です。しかしそれを骨格提言棚上げのいい訳にするのか、データに基づいて国民の後押しを生み出しその壁を乗り越える努力をするのか、つまり、骨格提言の実現を追求するのかしないのか、この点を私は言いたかったのです。

この新聞記事によって、「もと部会長の佐藤久夫も、いまでは厚労省の言い分を認めるに至った」などの誤解が生じるとすれば、まったく本意ではありませんので、よろしくお願いします。 佐藤久夫



特定非営利活動法人 奈良県自閉症協会主催

平成24年度 保護者の為の自閉症理解と生活支援ワークショップ

自閉症として生まれてきた子供と楽しく過ごすために！
 ちょっとした工夫をして、ちょっと考えかたを変えてみて・・・
 自閉症の子どもをもつ親どうし、一緒に学びませんか？

- 対象者 : 奈良県内在住の自閉症の診断を受けた子どもの保護者
 子どもの年齢は問いません。全8回 出来る限りご参加出来る方
- 定員 : 20名
- 参加費 : 資料代、場所代 500円 (会員は無料です)
- 講師 : 波多野 伸江先生 (臨床心理士)
- 場所 : 奈良県心身障害者福祉センター (田原本)
 SKIP教室 大和郡山市泉原町10-3 (補習場所)
- 時間 : 10:30~12:30 (1回目終了しましたが 途中参加もOKです)

全8回予定 日程表

日時 (田原本)	内 容	SKIP教室での補習日
6月 7日 (木)	自閉症って何？	6月19日 (火)
7月 5日 (木)	評価について 我子の事を知ろう！	7月10日 (火)
9月 6日	構造化って何？ どうして必要？	9月11日 (火)
10月 4日	コミュニケーションについて その1	10月5日 (金)
11月 1日	コミュニケーションについて その2	11月2日 (金)
12月 13日	困った行動？どうしたら	12月14日 (金)
1月 24日	困った行動？ どうしたら？から 何故？	未定
2月 21日	まとめ 質問	未定

*21年度~23年度の参加者の引き続きの参加も大歓迎です。

更に 実践内容を取入れて計画中！！

- *奈良県心身障害者福祉センターの日程で参加出来なかった回は
 補習日を設けてSKIP教室でビデオ学習等で対応致します。(補習日参加は事前に連絡が必ず必要です。)
- *補修日には 毎回の課題ワークのフォロー等も行います。
- *リピーターの方向けの フォローアップ内容も用意しました。

勉強会に参加の方から 24年度もSKIP勉強会を
 大和郡山市泉原町のSKIP教室にて開催したいと思います。
 支援グッズや個別課題等のいろんな資料や、自閉症や発達
 障害の本やこれまでの講演会ビデオなども置いてありますので
 補習日には、お時間のある限り見ていただけます。

実践勉強会、SKIP 療育クラス案内

2012年度も SKIP 療育クラスを予定しています。メンバーには これまで子供の療育に通いながら実践されてきた保護者も加わり、養護の先生たち、以前の実践セミナーの体験者です。いろいろな形で子供と関わりながらの支援を一緒に進めていきませんか。お待ちしております。

参加資格は 過去に「保護者の為の勉強会」や 奈良県自閉症協会の講演会に参加された方、本年度の「保護者の為のワークショップ」に参加対象にします。【リピーターも可】

SKIP 療育クラスの予定

☆6月からの 月曜日や 土・日曜日を中心に 子供さんグループに合わせて

参加費 1,000円 (教材費 場所代、会員 500円)

勉強のための保護者だけの参加も大歓迎です。

先生や自閉症に関わってくださっている全ての関係の方のご参加もお待ちしております。

保護者のための・実践とも

問い合わせ・申込み先

TEL/FAX 0743-25-4299 (留守電へ)

E-mail naraskip@yahoo.co.jp (携帯からもOK)

名 前	年 齢	所 属
〒		
住 所		
電話番号	メールアドレス	
保護者のワークショップ希望	SKIP 療育クラス希望	
() 通常 田原本参加	() 日曜日 午前	() 日曜日 午後 ()
() 泉原 SKIP	月曜日 15時～	

SKIP教室

周辺案内図



○電車でお越しの方：

JR 大和小泉駅（西口）より奈良交通バス「矢田山町」行き「泉原南口」停留所よりすぐ。
近鉄郡山駅より奈良交通バス「泉原町」行き「泉原町」停留所より徒歩2分

○お車でお越しの方：

国道25号線「小泉町西」交差点を北へすぐスーパー「ハッスル」の斜め前
セレミューズ矢田山の北隣り
美容院の2階です。
駐車場もあります。(2～3台)

過去講演会の録画 DVD による勉強会

* 21年度～23年度、奈良県自閉症協会主催の講演会を録画した DVD を
使用しての勉強会を 毎週月曜日を中心に 計画いたしました。

ご参加希望の方は 3日前までに必ず 申し込みをお願いいたします。

場所 : SKIP教室 大和郡山市泉原町10-3

時間 : 10:30~12:30

参加費 : 500円 (場所代、会員無料)

勉強会では A 又は B のどちらか 一方のみの参加になります。

日時	DVD A	DVD B
9月3日(月)	その子らしさを生かす子育て 吉田友子先生 (H22.1.30)	子供たちの将来に向けて 中山清司先生 (H23.9.4)
9月18日(火)	自閉症の子供たちのよいところ 佐々木正美先生 (H24.4.22)	5回連続講座 ①自閉症の特性 山根和史先生 (H23.10.3)
10月15日(月)	自閉症の理解と支援 「余暇活動とソーシャルスキル」 門真一郎先生 (H22.10.17)	②「評価」 高橋亜希子先生 (H23.11.21)
10月29日(月)	「問題行動への対応」 門真一郎先生 (H22.1.17)	③「構造化」 譲田和芳先生 (H23.12.19)
11月5日(月)	自閉症の理解と支援 「司法と行政の共同活動から」 森繁樹先生 (H22.12.4)	④『コミュニケーション』 中山清司先生 (H23.1.16)
11月13日(火)	「自閉症児者が安心して暮らせる町をめざし て」大屋滋先生	⑤「問題行動」 中山清司先生 (H22.1.18)
11月19日(月)	「発達障害・自閉症に対する行動問題の理解 と支援」 岡村章司先生 (H24.1.22)	NHK フォーラム リカイヒロメタインジャー講演
12月 3日(月)	自閉症の理解と支援 「精神科医療の情報を中心に」 飯田順三先生 (H23.2.13)	NHK フォーラム シンポジウム

問合せ・申込先 TEL/FAX 0743-25-4299 (留守電へ)

E-mail naraskip@yahoo.co.jp (携帯からもOK)

豊かに暮らしたい23年度版」の配布について

防災ハンドブックを印刷経費値段で御分け致します。

平成23年度WAM助成金事業 完了報告冊子

「奈良県で暮らす発達障害児者の為に豊かに暮らしたい23年度版」を作成致しました。

会員には、1冊郵送致します。

会員様で追加希望の方、会員以外でもご希望の方、団体様へ無料でお送りいたしますので送り先、何冊必要かをご連絡頂けます様お願いいたします。

(ご希望の数が多い場合は、ご相談させていただいたり、お時間を頂く事になりますのでご了承ください。)

(社)日本自閉症協会作成の 防災ハンドブック

平成20年に独立行政法人福祉医

療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業により防災ハンドブックを作成いたしておりましたが、今回の大震災の経験からさらに補強をする必要を感じ、厚生労働省平成23年度障害者総合福祉推進事業「災害時における自閉症をはじめとする発達障害のある方の行動把握と効果的な情報提供のあり方等に関する調査について」により内容の見直しをいたしました。

防災ハンドブックは (社)日本自閉症協会 HP よりもご自由にダウンロードでき作成していただけます。
<http://www.autism.or.jp/bousai/index.htm>

防災・支援ハンドブックは家庭用のプリンターなどでA4用紙に印刷(小冊子の印刷として両面印刷・・・プリンターによりできないこともあります)をしていただき、二つ折りにしていただきますと、A5版のハ

ンドブックを作ることができます。みなさまの防災に役立てていただきますようお願いいたします。

今回の新バージョンのハンドブックの増刷りを購入いたしましたので

ご希望の方に 経費分のみのご負担で御分け致します。

*家族用190円

(会員には1冊無料でお送りします)

*支援者用110円2種類あります。

「豊かにくらしたい」「防災ハンドブック」冊子

問合せ・申し込み先 TEL/FAX

0743-25-4299 (留守電へ)

E-mail naraskip@yahoo.co.jp

(携帯からもOK)御手元に お届けできるまで お時間が かかりま

いいいたします。



発行人：関西障害者定期刊行物協会

住所：〒543-0015

大阪市天王寺区真田山2-2 東興ビル4F

編集人：河村 舟二

定 価：100円